

景況レポート

No.152

2025年7月～9月期



北見しんきん

〒090-8711 北見市大通東1丁目2番地1

電話(代) 0157-24-7531

URL: <https://www.shinkin.co.jp/kitami/>

本レポートはホームページでもご覧になれます。

景気動向

道内景気

日本銀行札幌支店が10月1日に発表した9月の企業短期経済観測調査結果(短観)によりますと、道内企業の景況感を示す業況判断指数(DI:「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値)は全産業で『14』となり、前回の調査『18』から悪化しました。内訳では、製造業(前回5→今回4)は悪化、非製造業(前回21→今回16)も悪化でした。2025年12月までの全産業での先行き予測は12と、悪化の見通しです。

また10月1日に発表された道内の金融経済概況は次の通りです。道内の景気は、一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに持ち直している。公共投資は、高水準で推移している。個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、底堅く推移している。観光は、増勢が鈍化している。設備投資は、緩やかに増加している。輸出は、緩やかに増加している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。生産は、横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる。雇用・所得情勢をみると、緩やかに改善している。

【公共投資】 高水準で推移している。

【個人消費】 百貨店、スーパー、コンビニエンスストアは、横ばい圏内の動きとなっている。ドラッグストアは、足もと増勢が鈍化している。家電販売は、弱含みの動きが一服している。乗用車販売は、持ち直しの動きが一服している。サービス消費は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに増加している。

【観光】 増勢が鈍化している。

【新設住宅着工戸数】 持家は、弱めの動きとなっている。貸家は、横ばい圏内の動きとなっている。分譲は、減少している。

【生産(鉱工業生産)】 横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる。主要業種別にみると、食料品は、横ばい圏内の動きとなっている。輸送機械は、回復しつつある。金属製品は、持ち直しの兆しがみられている。電気機械は、持ち直しの動きが一服している。

【雇用・所得情勢】 緩やかに改善している。

【消費者物価(除く生鮮食品)】 前年比2%台半ばのプラスとなっている。

【企業倒産】 横ばい圏内の動きとなっている。

地区内景気

今回の当金庫の景気動向調査による北見地区の景況は、前年同期と比較したDI値は、売上高が▲19と1ポイントの悪化、収益は▲22と2ポイントの改善でした。直前3ヵ月と比較した今後3ヵ月の見通しでは、売上DI値は▲12と11ポイント悪化、収益DI値は▲15と7ポイント悪化の見通しとなっています。

特別調査 【不透明感が増す経済社会情勢と中小企業経営】

経済社会情勢の不透明感が増していくなか、それが中小企業の経営に及ぼす影響も相応に大きくなってきていると考えられます。そこで今回は、不透明感が増す経済社会情勢と中小企業経営というテーマで調査を実施しました。

【米国の経済社会政策による売上への影響】

「これまでの売上」、「今後の売上」とともに「特に影響がなかった（ない）」が最も多い回答となり、全国水準を上回った一方で、「多少の悪影響があった（ある）」、「大いに悪影響があった（ある）」との回答が全国水準を下回っている。

【中国経済の減速による影響】

「特に影響を見込んでいない」が73.5%と最も多く、全国水準を上回った。影響が見込まれるとの回答の中では、「原材料・部品・商品等の調達難（12.2%）」が最も多く、「中国からの輸入コストの上昇（11.6%）」が続いた。

【外国為替水準と物価上昇傾向】

為替については、「現状より円高傾向が望ましい」の28.9%に対し、「現状程度が望ましい」は8.3%、「現状より円安傾向が望ましい」は9.4%となり、相対的に円高を望む企業が多く、全国と同じ傾向となった。物価上昇の影響については、「悪い影響をもたらしている」が45.6%と約半数を占めた。

【経営面で見直したい取組み】

「既存顧客との関係強化（32.0%）」が最も多く、以下「コスト削減（29.8%）」、「新規顧客の開拓（29.3%）」と続いた。一方、「特にない」が20.4%となり、全国水準を上回っている。

【地域金融機関の体制面で望むこと】

「要望に対する迅速な対応（35.9%）」や「担当者の頻繁な人事異動がないこと（27.6%）」の要望が多い一方で、「特に期待していない」が25.4%となり、全国水準を大きく上回っている。

【トランプ大統領就任後、米国の経済社会政策（関税等）には不透明感が増しています。こうした動きを受けて、貴社の売上にこれまで影響がありましたか。次の1～5の中から1つ選んでお答えください。また、今後の売上に影響があると予想しますか。次の6～0の中から1つ選んでお答えください。】

これまでの売上		《全国》	
1. 大いに悪影響があった	1.7%	1.9%	
2. 多少の悪影響があった	11.0%	17.4%	
3. 特に影響がなかった	65.2%	62.4%	
4. むしろ良い影響があった	0.0%	0.4%	
5. わからない	22.1%	18.0%	
今後の売上		《全国》	
6. 大いに悪影響があると予想する	2.2%	3.8%	
7. 多少の悪影響があると予想する	26.0%	32.9%	
8. 特に影響がないと予想する	43.6%	39.6%	
9. むしろ良い影響があると予想する	0.6%	0.7%	
0. わからない	27.6%	23.1%	

【中国経済の減速が懸念されていますが、貴社に対して間接的な事象も含めてどのような影響が見込まれますか。あてはまるものを次の1～0の中から3つ以内で選んでお答えください。】

《全国》			
1. 中国企業や個人向け売上の減少	2.8%	4.7%	
2. 中国と取引のある元請け企業からの受注減少	1.1%	5.8%	
3. 中国からの輸入コストの上昇	11.6%	10.8%	
4. 中国製品との価格競争の激化	2.8%	6.6%	
5. 原材料・部品・商品等の調達難	12.2%	17.8%	
6. 売掛金回収リスクの増大	0.6%	1.5%	
7. 為替変動による収益の悪化	1.7%	5.3%	
8. 中国人労働者の増加	0.6%	2.1%	
9. その他	0.6%	0.7%	
0. 特に影響を見込んでいない	73.5%	63.1%	

【今後の外国為替相場（主に円ドル相場）の貴社にとって望ましい水準について、次の1～5の中から1つ選んでお答えください。また、コロナ禍以降の物価上昇傾向が貴社の経営にもたらす影響について、次の6～0の中から1つ選んでお答えください。】

為替		《全国》	
1. 現状より円高傾向が望ましい	28.9%	28.5%	
2. 現状程度が望ましい	8.3%	12.5%	
3. 現状より円安傾向が望ましい	9.4%	6.9%	
4. 自社には関係ない	16.7%	25.7%	
5. わからない	36.7%	26.5%	
物価上昇		《全国》	
6. 良い影響をもたらしている	4.4%	1.6%	
7. どちらともいえない	18.9%	27.5%	
8. 悪い影響をもたらしている	45.6%	48.1%	
9. 自社には関係ない	7.8%	8.1%	
0. わからない	23.3%	14.7%	

【不透明感が増す経済社会情勢を受けて、経営面で今後見直したい取組みはありますか。次の1～0の中から3つ以内で選んでお答えください。】

《全国》			
1. 事業の多角化	14.4%	13.3%	
2. 新規顧客の開拓	29.3%	34.4%	
3. 既存顧客との関係強化	32.0%	30.5%	
4. 新商品・サービスの開発	16.0%	12.4%	
5. デジタル化の推進	12.7%	14.7%	
6. 従業員教育の強化	27.6%	26.5%	
7. 資金繰りの見直し	11.6%	15.6%	
8. コスト削減	29.8%	33.5%	
9. その他	0.6%	0.6%	
0. 特にない	20.4%	13.9%	

【不透明感が増す経済社会情勢を受けて、地域金融機関の体制面で望むことについて、次の1～0の中から3つ以内で選んでお答えください。】

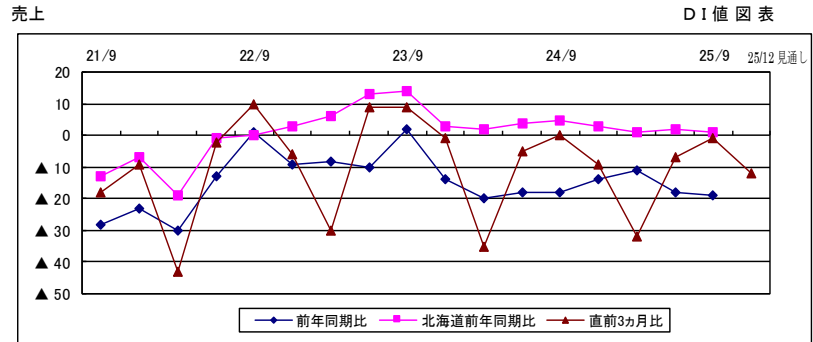
《全国》			
1. 担当者の訪問回数の増加	5.5%	7.9%	
2. 担当者訪問時の滞在時間の延長	1.1%	1.1%	
3. 担当者交代時の丁寧な引継ぎ	16.0%	17.0%	
4. 担当者の頻繁な人事異動がないこと	27.6%	23.1%	
5. 支店窓口での相談機能の強化	5.5%	8.3%	
6. インターネットバンキング等の非対面チャネル充実	8.8%	12.2%	
7. 金融機関の本部専担者・外部専門家による支援	14.9%	20.3%	
8. 要望に対する迅速な対応	35.9%	44.2%	
9. その他	2.2%	1.9%	
0. 特に期待していない	25.4%	16.4%	

売上

調査対象先企業 181 社の売上を総体的にみますと、前年同期（24 年 7～9 月）と比較して「増加」した先 23%、「変わらず」の先 35%、「減少」した先 42%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲19となり、前回調査より 1 ポイント悪化しました。

業種別で見ますと、卸売業、小売業は改善、製造業、建設業、サービス業は悪化となっています。

3 ヶ月毎の比較では改善、今後 3 ヶ月は悪化の見込みです。



調査時期	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	
前年同期比	▲28	▲23	▲30	▲13	1	▲9	▲8	▲10	2	▲14	▲20	▲18	▲18	▲14	▲11	▲18	▲19	
※前年同期比の未期見通しは調査しておりません。																		
調査時期	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	
北海道前年同期比	▲13	▲7	▲19	▲1	0	3	6	13	14	3	2	4	5	3	1	2	1	
※前年同期比の未期見通しは調査しておりません。																		
調査時期	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	
直前3ヵ月比	▲18	▲9	▲43	▲2	10	▲6	▲30	9	9	▲1	▲35	▲5	0	▲9	▲32	▲7	▲1	▲12
※前年同期比の未期見通しは調査しておりません。																		

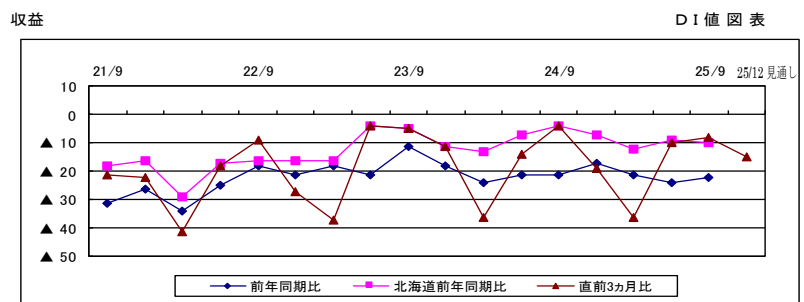
グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に行った全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、1 ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。

収益

調査対象先企業 181 社の収益を総体的にみますと、前年同期（24 年 7～9 月）と比較して「増加」した先 20%、「変わらず」の先 38%、「減少」した先 42%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲22となり、前回調査より 2 ポイント改善しました。

業種別で見ますと、製造業、小売業は改善、建設業は横ばい、卸売業、サービス業は悪化となっています。

3 ヶ月毎の比較では改善、今後 3 ヶ月は悪化の見込みです。



調査時期	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	
前年同期比	▲31	▲26	▲34	▲25	▲18	▲21	▲18	▲21	▲11	▲18	▲24	▲21	▲21	▲17	▲21	▲24	▲22	
※前年同期比の未期見通しは調査しておりません。																		
調査時期	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	
北海道前年同期比	▲18	▲16	▲29	▲17	▲16	▲16	▲16	▲4	▲5	▲11	▲13	▲7	▲4	▲7	▲12	▲9	▲10	
※前年同期比の未期見通しは調査しておりません。																		
調査時期	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	
直前3ヵ月比	▲21	▲22	▲41	▲18	▲9	▲27	▲37	▲4	▲5	▲11	▲36	▲14	▲4	▲19	▲36	▲10	▲8	▲15
※前年同期比の未期見通しは調査しておりません。																		

グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に行った全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、1 ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。

概況

調査先製造業全体の業況を前年同期（24年7～9月）と比較してみますと、売上で「増加」した先23%、「変わらず」の先41%、「減少」した先36%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は▲13となり、前回調査より3ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先26%、「変わらず」の先41%、「減少」した先33%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は▲7となり、前回調査より10ポイント改善しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	DI値
売上	前回(25/6)	6	15	9	▲10
	今回(25/9)	7	12	11	▲13
収益	前回(25/6)	4	17	9	▲17
	今回(25/9)	8	12	10	▲7

動向

【前年同期との比較】

売上は悪化、収益は改善しました。

内訳をみますと、木材製品が売上・収益ともに大きく改善した一方で、食料品が売上・収益ともに悪化しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上は悪化、収益は改善しました。

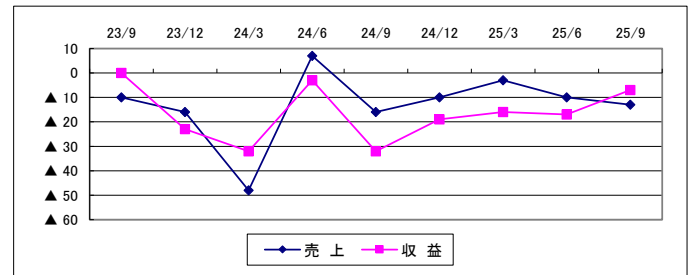
【今後3ヵ月の見通し】

売上、収益とも悪化の見通しです。

調査員のコメントには、「資材高騰の影響を受け収益が低下している」、「現状大きな変化はないが、秋口以降に受注を見込んでいる」、「製品の値上げによる売上高の増加を検討している」、「多角化による売上確保を目指す」といったものがありました。

前年同期比

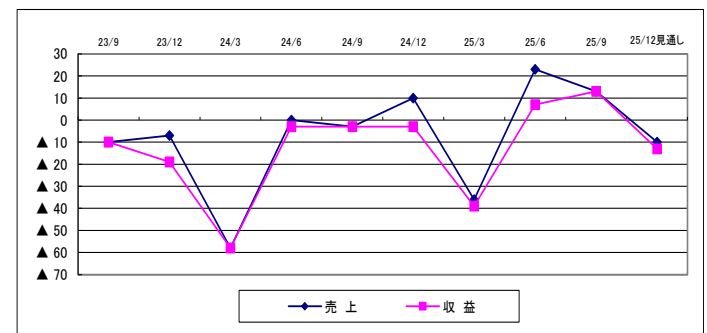
DI値図表



調査時期	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9
売上	▲10	▲16	▲48	7	▲16	▲10	▲3	▲10	▲13
収益	0	▲23	▲32	▲3	▲32	▲19	▲16	▲17	▲7

直前3ヵ月比

DI値図表



調査時期	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12見通し
売上	▲10	▲7	▲58	0	▲3	10	▲36	23	13	▲10
収益	▲10	▲19	▲58	▲3	▲3	▲3	▲39	7	13	▲13

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	食料品	木材製品	建設関連	その他
売上額	4月～6月と比較	13	13	▲13	63	▲17
	10月～12月の見通し	▲10	0	▲38	25	▲33
収益	4月～6月と比較	13	13	▲13	50	0
	10月～12月の見通し	▲13	0	▲50	13	▲17
販売価格	4月～6月と比較	23	25	13	38	17
	10月～12月の見通し	20	25	13	38	0
原材料価格	4月～6月と比較	37	50	25	50	17
	10月～12月の見通し	34	50	25	37	17
原材料在庫	4月～6月と比較	▲13	0	▲38	▲13	0
	10月～12月の見通し	▲10	0	▲25	▲13	0
資金繰	4月～6月と比較	▲3	0	▲25	0	17
	10月～12月の見通し	▲10	0	▲38	0	0

概況

調査先卸売業全体の業況を前年同期（24年7～9月）と比較してみますと、売上で「増加」した先32%、「変わらず」の先36%、「減少」した先32%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は0となり、前回調査より14ポイント改善しました。

収益は「増加」した先32%、「変わらず」の先27%、「減少」した先41%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は▲9となり、前回調査より9ポイント悪化しました。

販売価格は「増加」した先50%、「変わらず」の先46%、「減少」した先4%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は46となり、前回調査より13ポイント下降しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	D I 値
売上	前回(25/6)	4	11	7	▲14
	今回(25/9)	7	8	7	0
収益	前回(25/6)	6	10	6	0
	今回(25/9)	7	6	9	▲9
販売価格	前回(25/6)	13	9	0	59
	今回(25/9)	11	10	1	46

動向

【前年同期との比較】

売上は改善、収益は悪化、販売価格は下降しました。内訳をみますと、食料品の売上が大きく改善した一方で、建設関連とその他の収益が悪化しています。

【直前3ヵ月との比較】

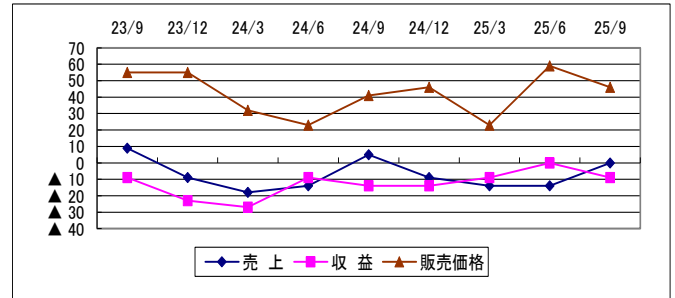
売上は改善、収益は悪化、販売価格は上昇しました。

【今後3ヵ月の見通し】

売上は横ばい、収益は改善、販売価格は下降の見通しです。

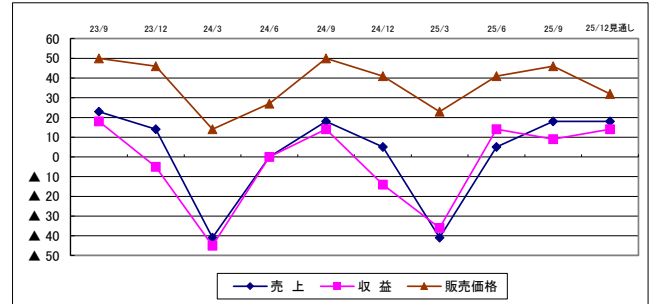
調査員のコメントには、「為替の不透明感に懸念を抱くとともに物価高による市場低迷を不安視している」、「農作物の収穫減に伴う資材需要の減少を予想」、「同業他社との価格競争の激化により利益率低下」といったものがありました。

前年同期比 DI値図表



調査時期	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9
売上	9	▲9	▲18	▲14	5	▲9	▲14	▲14	0
収益	▲9	▲23	▲27	▲9	▲14	▲14	▲9	0	▲9
販売価格	55	55	32	23	41	46	23	59	46

直前3ヵ月比 DI値図表



調査時期	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12見通し
売上	23	14	▲41	0	18	5	▲41	5	18	18
収益	18	▲5	▲45	0	14	▲14	▲36	14	9	14
販売価格	50	46	14	27	50	41	23	41	46	32

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	食料品	建設関連	その他
売上額	4月～6月と比較	18	0	44	0
	10月～12月の見通し	18	33	33	▲14
収益	4月～6月と比較	9	▲17	33	0
	10月～12月の見通し	14	17	22	0
販売価格	4月～6月と比較	46	50	33	57
	10月～12月の見通し	32	50	11	43
仕入価格	4月～6月と比較	36	50	11	57
	10月～12月の見通し	41	50	11	71
在庫	4月～6月と比較	▲5	▲17	0	0
	10月～12月の見通し	▲5	▲17	0	0
資金繰	4月～6月と比較	▲14	▲17	▲11	▲14
	10月～12月の見通し	▲5	0	▲11	0

概況

調査先小売業全体の業況を前年同期（24年7～9月）と比較してみると、売上で「増加」した先21%、「変らず」の先27%、「減少」した先52%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は▲31となり、前回調査より7ポイント改善しました。

収益は「増加」した先19%、「変らず」の先24%、「減少」した先57%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は▲38となり、前回調査より14ポイント改善しました。

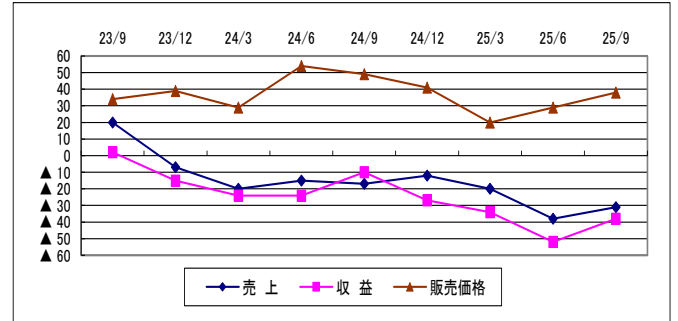
販売価格は「増加」した先40%、「変らず」の先58%、「減少」した先2%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は38となり、前回調査より9ポイント上昇しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変らず	減少	D I 値
売上	前回(25/6)	5	16	21	▲38
	今回(25/9)	9	11	22	▲31
収益	前回(25/6)	2	16	24	▲52
	今回(25/9)	8	10	24	▲38
販売価格	前回(25/6)	16	22	4	29
	今回(25/9)	17	24	1	38

前年同期比

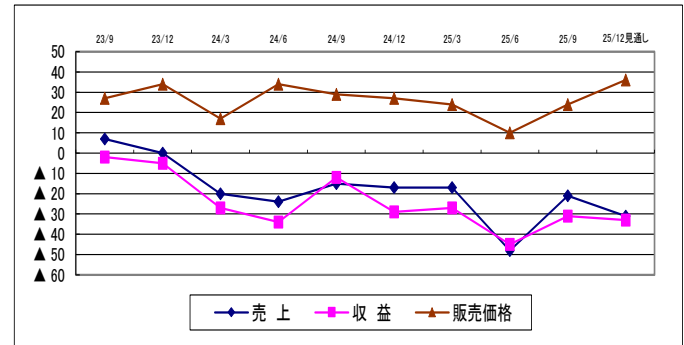
D I値図表



調査時期	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9
売上	20	▲7	▲20	▲15	▲17	▲12	▲20	▲38	▲31
収益	2	▲15	▲24	▲24	▲10	▲27	▲34	▲52	▲38
販売価格	34	39	29	54	49	41	20	29	38

直前3ヵ月比

D I値図表



調査時期	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12見通し
売上	7	0	▲20	▲24	▲15	▲17	▲17	▲48	▲21	▲31
収益	▲2	▲5	▲27	▲34	▲12	▲29	▲27	▲45	▲31	▲33
販売価格	27	34	17	34	29	27	24	10	24	36

動向

【前年同期との比較】

売上、収益ともに改善、販売価格は上昇しました。内訳をみると、食料品以外は全般的に改善、上昇しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上、収益は改善、販売価格は上昇しました。

【今後3ヵ月の見通し】

売上、収益は悪化、販売価格は上昇の見通しです。

調査員のコメントには、「外国発の超低価格 EC の影響により店頭販売需要が減少」、「取扱商品の絞り込みによる利益率改善策が必要」、「地域固定客とのコミュニケーションを重視した営業を展開している」、「幅広い人脈を活かした営業活動で取引先を広げている」などがありました。

直前3ヵ月比調査の業種別状況(D I値による) (%)

項目	全体	衣料品	食料品	その他	
売上額	4月～6月と比較	▲21	▲50	▲22	▲11
	10月～12月の見通し	▲31	▲50	▲45	▲11
収益	4月～6月と比較	▲31	▲33	▲33	▲28
	10月～12月の見通し	▲33	▲33	▲50	▲17
販売価格	4月～6月と比較	24	17	28	22
	10月～12月の見通し	36	67	39	22
仕入価格	4月～6月と比較	43	17	67	28
	10月～12月の見通し	50	50	61	39
在庫	4月～6月と比較	12	17	6	17
	10月～12月の見通し	12	33	6	11
資金繰	4月～6月と比較	▲31	▲67	▲33	▲17
	10月～12月の見通し	▲31	▲67	▲33	▲17

概況

調査先建設業全体の業況を前年同期（24年7～9月）と比較してみますと、売上で「増加」した先26%、「変わらず」の先31%、「減少」した先43%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲17となり、前回調査より8ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先20%、「変わらず」の先46%、「減少」した先34%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲14となり、前回調査と同じでした。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	D I 値
売上	前回(25/6)	9	14	12	▲9
	今回(25/9)	9	11	15	▲17
収益	前回(25/6)	8	14	13	▲14
	今回(25/9)	7	16	12	▲14

動向

【前年同期との比較】

売上は悪化、収益は横ばいとなりました。

内訳のD I 値の推移は以下のようになっています。

- ・ 土木売上：前回 7→今回▲14
- ・ 同 収益：前回 7→今回▲14
- ・ 建築売上：前回▲25→今回▲31
- ・ 同 収益：前回▲25→今回▲25

【直前3ヵ月との比較】

売上、収益とも横ばいとなりました。

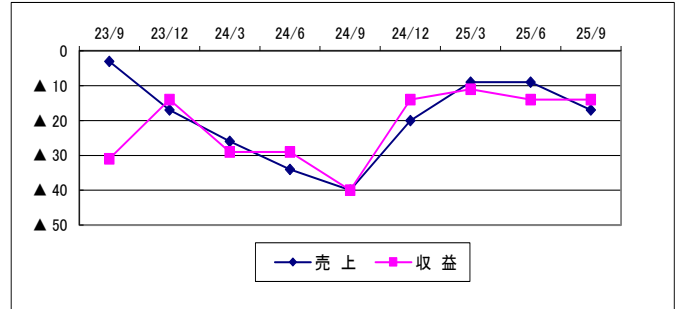
【今後3ヵ月の見通し】

売上、収益とも悪化の見通しです。

調査員のコメントには、「建売住宅は堅調に買い手が決まっている」、「近郊の公共工事を堅調に確保している」、「材料価格の上昇により収益悪化」、「受注は安定しているが人材不足に悩まされている」といったものがありました。

前年同期比

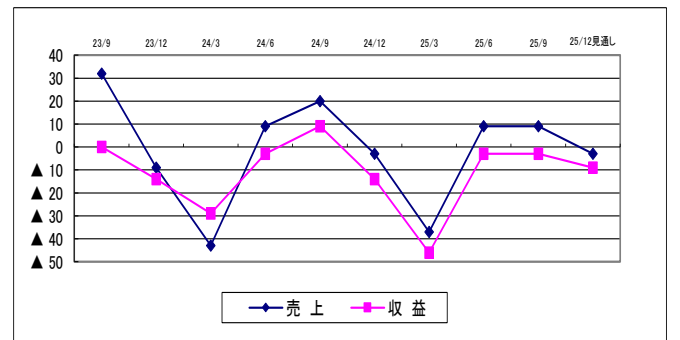
D I 値図表



調査時期	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9
売上	▲3	▲17	▲26	▲34	▲40	▲20	▲9	▲9	▲17
収益	▲31	▲14	▲29	▲29	▲40	▲14	▲11	▲14	▲14

直前3ヵ月比

D I 値図表



調査時期	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12見通し
売上	32	▲9	▲43	9	20	▲3	▲37	9	9	▲3
収益	0	▲14	▲29	▲3	9	▲14	▲46	▲3	▲3	▲9

直前3ヵ月比調査の業種別状況(D I 値による) (%)

項目	全体	土木	建築	その他	
売上額	4月～6月と比較	9	14	0	20
	10月～12月の見通し	▲3	▲7	13	▲40
施工高	4月～6月と比較	9	7	6	20
	10月～12月の見通し	11	14	25	▲40
収益	4月～6月と比較	▲3	▲7	▲6	20
	10月～12月の見通し	▲9	0	▲6	▲40
請負価格	4月～6月と比較	23	22	31	0
	10月～12月の見通し	14	14	13	20
材料価格	4月～6月と比較	66	64	63	80
	10月～12月の見通し	49	57	38	60
在庫	4月～6月と比較	▲3	▲7	0	0
	10月～12月の見通し	▲3	▲7	0	0
資金繰	4月～6月と比較	▲3	▲7	▲6	20
	10月～12月の見通し	▲11	▲14	▲13	0

概況

調査先サービス業全体の業況を前年同期(24年7~9月)と比較してみますと、売上で「増加」した先17%、「変わらず」の先45%、「減少」した先38%で、そのD I 値(増加割合-減少割合)は▲21となり、前回調査より6ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先11%、「変わらず」の先49%、「減少」した先40%で、そのD I 値(増加割合-減少割合)は▲29となり、前回調査より6ポイント悪化しました。

調査回答数(前年同期比)

		増加	変わらず	減少	D I 値
売上	前回(25/6)	14	16	22	▲15
	今回(25/9)	9	23	20	▲21
収益	前回(25/6)	10	20	22	▲23
	今回(25/9)	6	25	21	▲29

動向

【前年同期との比較】

売上、収益とも悪化しました。

内訳をみますと、理容美容は売上・収益ともに改善した一方、その他は売上・収益ともに悪化しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上、収益ともに悪化しました。

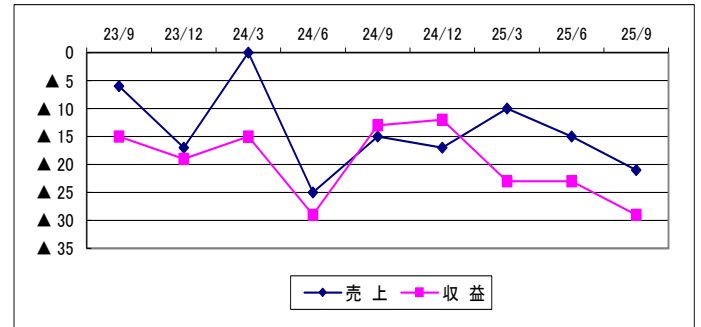
【今後3ヵ月の見通し】

売上、収益ともに悪化の見通しです。

調査員のコメントには、「客層の高齢化に伴い、売上も減少傾向」、「スムーズな事業承継に向け、後継者の育成を最優先としている」、「客層の変化によりサービスの要望が多様化し、既存の営業スタイルでは対応が困難になっている」といったものがありました。

前年同期比

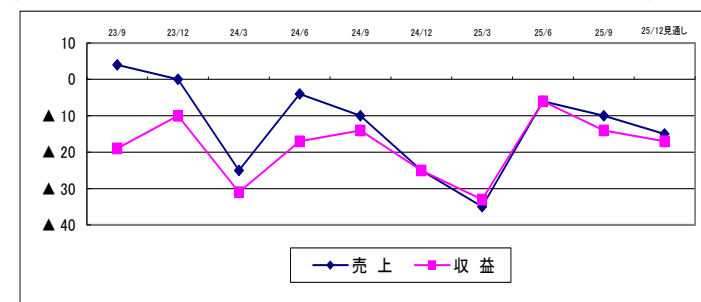
DI値図表



調査時期	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9
売上	▲6	▲17	0	▲25	▲15	▲17	▲10	▲15	▲21
収益	▲15	▲19	▲15	▲29	▲13	▲12	▲23	▲23	▲29

直前3ヵ月比

DI値図表



調査時期	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12見通し
売上	4	0	▲25	▲4	▲10	▲25	▲35	▲6	▲10	▲15
収益	▲19	▲10	▲31	▲17	▲14	▲25	▲33	▲6	▲14	▲17

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	理容美容	車両関係	その他
売上額	4月~6月と比較	▲10	11	▲50	4
	10月~12月の見通し	▲15	▲22	▲29	▲7
収益	4月~6月と比較	▲14	▲11	▲57	7
	10月~12月の見通し	▲17	▲22	▲43	▲4
料金価格	4月~6月と比較	14	11	0	21
	10月~12月の見通し	15	0	29	14
材料価格	4月~6月と比較	62	78	36	69
	10月~12月の見通し	56	67	64	48
資金繰	4月~6月と比較	▲12	0	▲14	▲14
	10月~12月の見通し	▲13	0	▲14	▲17

経営上の問題点 【複数回答】

	1位	2位	3位
製造業	原材料高 46.7%	人手不足 36.7%	人件費の増加 33.3%
卸売業	売上の停滞・減少 40.9%	利幅の縮小 31.8%	人件費の増加 27.3%
小売業	売上の停滞・減少 61.9%	商圏人口の減少 26.2%	仕入先からの値上げ要請 21.4%
建設業	人手不足 62.9%	材料価格の上昇 54.3%	売上の停滞・減少 40.0%
サービス業	売上の停滞・減少 38.5%	人手不足 32.7%	材料価格の上昇 32.7%

経営施策 【複数回答】

	1位	2位	3位
製造業	経費を節減する 56.7%	人材を確保する 33.3%	新製品・技術を開発する 30.0%
卸売業	情報力を強化する 63.6%	経費を節減する 59.1%	販路を広げる 54.5%
小売業	経費を節減する 57.1%	品揃えを改善する 38.1%	売れ筋商品を取扱う 19.0%
建設業	人材を確保する 65.7%	経費を節減する 42.9%	技術力を高める 34.3%
サービス業	経費を節減する 53.8%	販路を広げる 34.6%	人材を確保する 23.1%

【調査要領】

1. 調査地域 北見地方1市4町（北見市、置戸町、訓子府町、美幌町、津別町）
2. 調査時点 2025年 9月
2025年 7月～ 9月期の実績および見込み
2025年10月～12月期の見通し
3. 調査対象企業 当金庫お取引先181社（任意抽出）
回答企業数 181社
回答率 100%
4. 調査方法 調査表による訪問聞き取り調査
調査表は信金中央金庫が実施する「全国中小企業景気動向調査」と同一のものを使用
5. 業種別回答企業数

製造業	卸売業	小売業	建設業	サービス業	合計
30	22	42	35	52	181

6. 分析方法
各質問項目を100分比に換算し、パーセント（%）数値による分析を行いました。また、好転か悪化の傾向をみる方法として、「増加割合－減少割合＝判断指数（DI値）」で分析を行いました。

企業の経理事務を便利にサポート
インターネットバンキング
WEB-FB

- 総合振込 ■給与・賞与振込 ■都度振込 ■口座振替 ■入出金明細照会 ■残高照会

低コスト！

インターネットが使える環境さえあれば、すぐにご利用が可能です。
 専用ソフト、専用端末などに余計な経費をかけません。

効率的！

総合振込、給与・賞与振込、都度振込、口座振替業務がインターネット経由でスピーディにご利用いただけます。
 振込や振替のデータは外部ファイルから取り込むこともできます。

便利！

登録先の口座以外でも当日振込が可能です。急な振込がオフィスのパソコンから随時できるので便利。
 また、振込完了や為替エラーなど、重要な連絡を電子メールでタイムリーにお知らせします。

安心！

一般者用ID、承認者用ID、管理者用IDの3つのIDで権限設定が可能です。
 登録したデータの承認を貴社の管理者がダイレクトにできるため、厳密なチェックが可能です。
 電子証明書とワンタイムパスワードにより、安全にご利用いただけます。

オホーツク圏経済情勢報告（令和7年7月判断）概況

	前回（7年4月判断）	今回（7年7月判断）	前回比較	総括判断の要点
総括判断	持ち直しつつある	持ち直しつつある 【判断の据え置きは、令和5年7月判断以降、9期連続】	➡	個人消費は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。 観光は、緩やかに回復している。 雇用は、緩やかに持ち直しつつある。

	前回（7年4月判断）	今回（7年7月判断）	前回比較	備考
個人消費	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	➡	
観光	緩やかに回復している	緩やかに回復している	➡	
雇用	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	➡	

公共事業	前年を下回る	前年を上回る	↗	
住宅着工	前年を上回る	前年を下回る	↘	

先行き	先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇の継続、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。			
-----	--	--	--	--

（注）7年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。